概　　要

本研究は、大学教育における住教育の多様化状況を背景に、それらがもっとも顕著に表れている教員養成系大学・学部、及び短期大学を対象に、1）住教育の実態とその問題点、2）住教育の効果的学習の実践と提案、を行うとともに、3）インターネットを活用した住教育情報の紹介及び発信、を試行したものである。以下は、その結果である。

1）住教育の多様化は、教員養成系大学・学部の改組と無関係ではなく、住教育関連カリキュラムを含む課程（コース・専攻・専修等々）が増え続けており、例えば、生活系、環境系、健康系、地域系、福祉系の課程・コースでは、確実に住宅・住生活・まちづくり関連の開講科目が登場しつつある。これらは、従前からの教員養成のための住教育とともに、住居学担当教官への負担増や授業改善の要請へと連なっているといえる。しかし、教材作成の準備不足や人手不足、財政的な問題でその解消は困難となっている。

同様なことは短期大学でも生じており、中・高の家庭科免許の取得のほか、建築士やインテリアプランナー受験資格の取得要求は、住居学関連科目の増加につながっている。

2）教育対象の多様化に伴い、住教育の多様化も必然となり、体験的学習やフィールド学習、実習・制作を含めた授業が様々に展開されつつある。5つの大学の実践例をみると、「講義・演習」では視聴覚機器の利用は当然のこととして、教室を出ての各種施設の見学・体験学習を有効活用していること、「設計・製図」では CAD の利用や模型制作、折り紙建築の活用などユニークな実践例が見られる。学生の空間把握能力の育成や家族・地域生活を考察させる上で、各担当者はそれぞれ独自の工夫を凝らしていると言えよう。

3）学校教育でもインターネットを活用した学習機会が増え、住教育でも今後その可能性は高まるものと予想される。既に、住まいやまちづくりをテーマに掲げたメーリングリストやメールマガジンが登場し、住教育 ML や家庭科教育 ML（例えば「隣の家庭科」）、環境教育 ML、Oh My HOME!!、ハウジングラインなどがよく情報発信している。

また、インターネットを活用した住教育の事例では、大阪府吹田市の小学校3年生の「総合的な学習：くらしのうつりかわり」をテーマにした、小学校と大学の交流実践授業も試みられ、今後の新たな展開のひとつと思われる。

以上のように、住居学関連科目を中心とした住教育の多様化は、住民による空間・環境の再構築と管理能力の育成という見地から、学校教育・社会教育を問わず、ますます進展していくものと思われる。しかしながら、多様化に対応すべき大学における住教育システムの改善は、マンパワー（教員）不足をはじめとする様々な理由により、必ずしも十分ではない。それゆえ、上記に照らした住教育情報の公開と交流が欠かせない。同時に、教育課程や学問領域を越えた連携が、さらに望まれるところである。

尚、5大学のささやかな実践例は、「住教育情報ネットワーク研究会」のホームページ上（http://www.ccn.yamanashi.ac.jp/~tanaka/first/index.html）で公開中である。多くの方々からのアクセスと同時に、ご意見ご批判を仰ぎたい。